



森林でのヨガ体験

現在、本町では豊富な森林資源を地域の食や文化、健康づくり等と組み合わせることにより、小国町でしか体験できない企画やコンテンツを提供する新たな取り組みを展開し、協働人口の拡大や地域経済の活性化につなげる森林サービス産業創出事業を進めています。

令和4年度は地域資源調査や企業へのニーズ調査、森林活用に関するセミナー等の開催を実施しました。今月は、その内容を紹介するとともに今後の方向性と展望についてお知らせします。

白い森から 新たな価値を創り出す

～森林サービス産業創出の取り組み～

高まる森林資源 のニーズ

小国町の面積の約94%はブナを中心とした広葉樹の森林です。

これらの森林空間は林業や山菜、キノコ等の山のめぐみの採取、狩猟等人々の営みの中で活用されてきました。しかし、生活様式の変遷に伴い活用される頻度は低くなっています。

一方、都市部では福利厚生や研修の一環として自然豊かな地域でのワークショップを取り入れる企業が徐々に増加しており、メンタルヘルス対策や人材育成の場として森林資源の需要が高まるとともに、健康や観光、教育、娯楽等、

様々な面で注目を集めています。このような都市部のニーズを的確にとらえることは地域産業の活性化を図るチャンスになります。企業が求めるサービスを提供することにより、経済的な効果のほか、様々なスキルを持った人材が訪れ、協働人口の増加や新たなビジネス機会の創出も見込まれます。また、森林空間の活用頻度が高まることで、森林の保全にもつながります。

こうした流れのなか、町では森林セラピー基地をはじめとした町内の豊かな森林空間を活用し、森林と健康や食、文化、スポーツといったコンテンツを組み合わせ新たなサービスを生み出す森林サービス産業創出事業に取り組んで

特集 白い森から新たな価値を創り出す

新たな産業の 創出に向けて

います。

令和4年度は森林資源を活用したワーケーションや企業研修に対するニーズを把握するため、健康経営に関心を持つ企業に対しアンケート調査を実施するとともに、森林サービス産業のコンテンツとなる地域資源について調査しました。

また、森林サービス産業について理解を深めていただき、事業のコアとなる人材を発掘するため町民のかたを対象としたセミナーや森林浴体験会、ワークショップ等を実施しました。

アンケート調査では県内や新潟県等の隣県、東京都内の健康経営優良法人を対象に健康経営の取組状況や企業研修の実施状況、小国町のイメージ、どのような資源に興味があるか等を質問し、172件

の回答をいただきました。

アンケートの回答結果によれば、小国町を訪れたことがある企業は全体の2割程度であり、そのほとんどは県内企業でした。小国町に対するイメージとしては「豊富な森林や水資源」、「雪」といった自然環境を挙げる企業が多く、興味がある資源として最も回答が多かった項目は「森林セラピー」でした。

また、たくさんの方が福祉厚生に高い関心を持っており、社員の家族を対象とした森林セラピーや雪を活用した冬のコンテンツに対して注目を寄せていました。

これらの結果から小国町の認知度や情報発信にはまだ課題があるものの、健康効果が高く家族で楽しめるコンテンツを創出することにより、企業の研修や福祉厚生プログラムとして利用してもらえる可能性が見えてきました。



ブナ林での資源調査



宿泊施設の調査



森林サービス産業セミナー



つる細工体験

特集 白い森から新たな価値を創り出す

一方、地域資源調査では地域活性化に取り組むコンサルティング企業である株式会社さとゆめと森林浴の専門家である一般社団法人「森と未来」代表理事の小野なぎささん、地域資源の調査を依頼し、外部からの目線で活用の可能性について検証いただきました。

この調査は昨年の秋と冬に実施し、森林セラピーや黒沢峠トレッキング、ワカサギ釣り、メイプルサップ採取等のほか、つる細工、木工体験といった文化的な活動にも取り組みました。また、これに関わる人材へのヒアリングや施設の調査も行い、どのようなサービスを提供できるのか、今後の方向性も探りました。

調査の結果、四季が明瞭なことを生かし、季節に応じたプログラムを提供することにより、一年を通して収益の確保が見込まれることや、気軽に冬の森林を体験できるプログラムを開発することにより

比較的温暖な都市部からの集客が期待できること、森林だけではなく地域にあるモノやコトを一括でコーディネートできる人材の必要性等が明らかになりました。

地域を 見つめなおす

森林サービス産業の創出を進めていくためには、何を目的に森林を活用した新たなサービスを創るのか、地域の資源を使ってどのような取り組みを進めるのか具体的なビジョンを持つことが重要です。

そこで令和4年11月、令和5年3月にかけて町民のかたが持っている漠然とした想いやアイデアを形にする「白い森の新たな滞在プログラムづくりワークショップ」を実施し、16人のかたが参加しました。

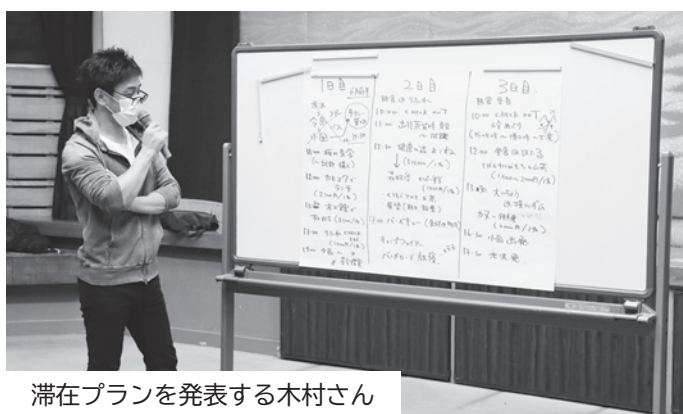
参加者は、3つのグループに分かれ、それぞれ具体的なターゲット像を設定し、その

人にあった滞在型プログラムのアイデアを出しあい観光交流プランを作成しました。

ワークショップには森林サービスに興味がある様々な年齢層、職業のかたに参加いただきました。普段の生活では関わるのが少ない年代、職業のかたと一緒に話し合うことにより、既存資源の価値を再認識し、それらをより魅力的にするためのアイデアの発想につながりました。最終日にはグループごとに設定したターゲットと、その人に合わせた滞在プランを発表し、地域資源を使ったプログラムについてのアイデアを共有しました。

参加者の一人である木村雅宣さん（緑町）は「都会に疲れた主人公が小国町を訪れ、様々な出会いや体験を通してピンチを乗り越え、成長して帰っていくストーリーを基にグループで滞在型プログラムを考えました。3グループの

すべてのプランに健康の森横根が入っており、町を訪れた人に行ってもらいたい場所だと認識されていることを実感しました。健康の森は自然が豊富ですが、周囲がスギ林で囲まれているため、光が差しにくく見栄えもよくありません。そこを改善するとよりよい資源になるのではないかと考えています」とワークショップで得た気づきを話してくれました。



滞在プランを発表する木村さん

特集 白い森から新たな価値を創り出す

森林サービス産業の可能性



株式会社さとゆめ
浅原武志長野支社長

森林サービス産業創出事業には町内外の企業や団体、専門家のかたの支援をいただき進めています。その中で株式会社さとゆめの浅原武志さんに小国町が持つ森林資源のポテンシャルについて伺いました。「小国町はブランドینگコンセプトである『白い森』のとおり、ブナと雪という地域資源はとても魅力的であると感じています。森林セラピーの拠点となる温身平以外にも、様々な場所が森林資源を活用できるポテンシャルを有しています。セミナーやワークショップを開催した際、多

くの町民のかたに参加いただいたのが印象的でした。豊富な地域資源とともに、その活用に対して関心を持つプレイヤーが多くいることは、魅力的な地域づくりのために欠かせない要素だと考えています」また、森林サービス産業の今後の展開や可能性については「夏と冬で町の景色や雰囲気が大きく変わるところが魅力的であり、この2つのシーズンでコンテンツを作り込んでいくことが重要です。ターゲットである都市部の企業や会社員にとって、小国町の雪は別世界。それを見て歩くだけではなく、癒しや驚きを与えられるように作り込んでいければ小国町でしか体験できないコンテンツが生まれます。よいコンテンツを作るためにはその地域に住むかたがたの協力が不可欠です。ぜひ町民の皆さんに事業に関わっていただき一緒にコンテンツを作りあげていきたいです」とお

話いただきました。

今後の事業展開

小国町には、町外者が魅力的に感じる森林資源や自然資源が数多く存在しています。たくさんのかたに小国町の魅力を知ってもらうため今年度は、情報発信に力を入れながら、都市部の企業、個人を対象としたモニターツアーや説明会等を実施するとともに、

森林を活用したコンテンツの医学的効果のエビデンス（根拠）の取得を目指します。

また、より多くのかたに事業に関わっていただくよう、町民のかたを対象としたワークショップ等も引き続き開催していきます。地域経済の活性化や人材交流、森林の保全等町全体の活性化につながるよう今後も着実に取り組んでいきます。



誘客が見込まれる雪の森林浴